

福岡がめざす子ども尺度の作成

兄井, 彰
福岡教育大学

須崎, 康臣
九州大学大学院

<https://doi.org/10.15017/1456151>

出版情報 : 生活体験学習研究. 13, pp.85-92, 2013-01-25. 日本生活体験学習学会
バージョン :
権利関係 :

福岡がめざす子ども尺度の作成

兄 井 彰* 須 崎 康 臣**

Creating Scales for Children's Development of Learning Motivation, Self-esteem and Moral Consciousness

Anii Akira* Susaki Yasuo**

要旨 教育力向上福岡県民会議が提言した福岡の教育ビジョンに示されている「福岡がめざす子ども」とは「志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい子ども」である。このような子どもをめざすための今日的課題として「学ぶ意欲」「自尊感情」「規範意識」「体力等」を高めることも提言されている。そこで本研究では、子どもの学ぶ意欲、自尊感情、規範意識を正しく測定するために、子どもに対する調査と担任教師による子どもの評定の調査を行い、子どもの実態が反映される項目の収集と選定を行った上で尺度作成することを目的とする。この尺度作成にあたり、「学ぶ意欲」は学芸大式学習意欲尺度（下山ら、1983）、「自尊感情」はRosenberg（1965）の自尊感情尺度を和訳したもの（福岡県青少年アンビシャス運動推進室、2010）、規範意識は社会的責任目標尺度（中谷、1996）の各項目を用いて調査を行った。調査結果を尺度ごとに因子分析を行い、学ぶ意欲は8項目、自尊感情は5項目、規範意識は7項目からなる「福岡がめざす子ども」尺度を作成した。この尺度は、各項目間のクロンバックの α 係数も高く、再テスト法により短期間に複数回実施しても回答が安定していることから信頼性が高いと考えられる。また、担任教師による子どもの評定との相関も高く基準関連妥当性が確保され、子どもの実態をよく反映するものだと考えられる。

キーワード 自尊感情、学ぶ意欲、規範意識、基準関連妥当性

I. はじめに

今日、子どもの多くが外で遊ぶなくなり、携帯型ゲーム機で遊ぶようなバーチャルな体験が多くなる一方で、実体験が不足する傾向にある。このため、さまざまな事柄に対する興味や関心が低くなっている。その結果、子どもは、「学ぶことに価値を感じない」、「人間関係がうまく築けない」、「ルールやマナーを守らないことを悪いと思わない」などの問題を抱えている（教育力向上福岡県民会議、2008）。このような今の子どもの抱える本質的な課題として、教育力向上福岡県民会議（2008）は、学ぶ意欲、自尊感情、規範意識、体力等の4つの低下として整理している。

このような子どもの学ぶ意欲の低下（沖、2009）

や自尊感情の低下（古荘、2009、横山、2010）、規範意識の低下（塩澤、2011、滝、2012）、体力の低下（中央教育審議会、2002）は、さまざまところで指摘されている。このような今の子どもの抱える課題を解決するさまざまな取り組みが、学校や地域で行われている（教育力向上福岡県民運動推進会議、2010、2011、2012）。

このような教育現場での取り組みの成果は、子どもに対するアンケート調査や実施者への聞き取り調査などで行われているが、客観的な指標を用いて、子どもに対する成果を報告しているものはほとんど無い。その理由としては、体力を除くと、学ぶ意欲や自尊感情、規範意識は、子ども自身が自分の状態をどのように思うかといった自己意識であり、客観

* 福岡教育大学（Fukuoka University of Education）

** 九州大学大学院（Graduate Student, Kyushu University）

連絡先：〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1-1

的な調査が難しいと考えられる。また、子どもの学ぶ意欲（速水ら、1989、桜井・高野、1985、佐藤・新井、1998、下村ら、1983、など）や自尊感情（青島、2008、福岡県青少年アンビシャス運動推進室、2010、中山ら、2011、野村、2003、桜井、1992など）、規範意識（安香ら、1990、原田・鈴木、2000、長崎県教育センター、2002、中谷、1996など）を測定する質問紙は、数多く存在するが、1つの質問紙で40項目を超えるものもあり、調査やデータの整理に時間がかかり、教育現場では使用が難しいものが多い。さらに、これらの質問紙のほとんどが理論的質問紙あるいは因子分析的質問紙（村上、2006）であり、ある程度の信頼性は確保されていると考えられるが、妥当性の一つである基準関連妥当性については、低いか不明なものも多く、実際の子どもの現状を正確に測定できているか疑問である。この質問紙の信頼性とは、測定値の一貫性と安定性のことで、同じ内容の質問項目で同じような一貫した回答が得られることと、何度か調査を行っても、ある程度測定値が同じような値で安定していることである（村上、2006）。また、質問紙の妥当性とは、測定値の正しさのことで、特に、基準関連妥当性は、測定値と問題としている特性や行動（例えば子どもの規範意識）の直接の測度となると考えられる外部変量（例えば、担任教師からみた子どもの規範意識の程度）との相関係数などで評価され、この相関が高ければ有用な尺度とされる（村上、2006）。このような信頼性や妥当性が確保された質問紙が存在しないことも客観的な取り組みの成果が報告されていない理由の一つと考えられる。

以上のことから、教育現場で行われているさまざまな取り組みの成果を客観的に評価するためには、教育現場で使用できるように、短時間で調査が可能で、尺度の信頼性と妥当性が確保された質問紙の作成を行う必要があると考えられる。特に、子どもの学ぶ意欲や自尊感情、規範意識を正確に測定できる質問紙を作成することが必要だと考えられる。

そこで本研究では、子どもの学ぶ意欲、自尊感情、規範意識を正しく測定するために、子どもに対する調査と担任教師による子どもの評定の調査を行い、子どもの実態が反映される項目の収集と選定を行った上で、できるだけ少ない項目からなる「福岡がめ

ざす子ども尺度」を作成することを目的とする。

II. 第1次調査

目的

子どもの学ぶ意欲、自尊感情、規範意識を正しく測定できる尺度を作成するために、子どもに対する調査と担任教師の子ども評定（教師評定）の調査を行い、子どもの実態が反映される項目の収集と選定を行うことが目的である。

方法

調査対象：福岡県下の小学校児童608名と中学校生徒293名のデータを回収した。分析対象は回収したデータで欠損値のない744名（男子358名、女子386名）と担任教師26名であった。その内訳を表1に示す。

調査用紙：子ども用の質問紙は以下の項目で構成した。まず、学ぶ意欲については、学習意欲と同じく、「積極的に学習しようとする気持ち」と定義することができる（下山ら、1985）。今回は、特定の理論的立場に立って特定の動機づけを把握するだけでなく、子どものさまざまな動機づけの側面を網羅的に捉えた学芸大式学習意欲検査（下山ら、1983）を用いた。また、自尊感情とは、「自分自身を価値あるものとして評価し信頼する感覚」であり、自己への肯定的な評価と定義されている（榎本、1998）。今回は、約1万4千人以上の子どもに調査実績のある福岡県青少年アンビシャス運動推進室が行った「子どもの自尊感情と生活のあり方との関係についての研究（2010）」と同じ質問紙を用いた。この質問紙はRosenberg（1965）を和訳したものである。さらに、規範意識については、「教室における規範やルールを守り、対人的に円滑な関係を持つようとする目標」である規範遵守目標を測定する社会的責任目標尺度

表1 分析対象者（人）

		男子	女子	計
小学校	4年	62	92	154
	5年	76	81	157
	6年	91	83	174
中学校	1年	62	63	125
	2年	67	67	134
				744

(中谷、1996)を用いた。子ども用質問紙の項目は、学ぶ意欲40項目、自尊感情10項目、規範意識18項目の68項目であった。

教師用の質問紙は、以下の3つの観点について文章化したものであった。担任教師が学級内の子ども全員に対して以下の3つの質問を、それぞれの5段階で評定(教師評定)を行った。①積極的に学習しようとする気持ちを持っている子どもですか(学ぶ意欲)、②自分自身を価値あるものとして評価し信頼する感覚を持っている子どもですか(自尊感情)③教室における明示的あるいは暗黙のルールを守り、規範に従おうとする感覚を持っている子どもですか(規範意識)。

調査手続き：平成23年12月中旬～下旬に調査を行った。子ども用質問紙は、担任教師が配布し、記入後回収した。教師用質問紙は、各クラスの担任教師が前述の期間中に各自で行った。

結果

調査項目の回答の偏りを見るために、68項目全てでフロア効果(低い値の回答が多すぎる項目)と天井効果(高い値の回答が多すぎる項目)を求めた結果、11項目がいずれかの効果が見られた。そのうち、フロア効果と天井効果の値が低く、内容的に必要だと考えられる5項目を除外せず、63項目で分析することとした。

次に、この63項目と教師評定による子どもの学ぶ

意欲、自尊感情、規範意識の相関関係を求めた。

これらの結果、子どもの回答と教師評定の学ぶ意欲、自尊感情、規範意識と相関係数が高い項目から15項目ずつ精選した(表2、表3、表4)。

教師評定で精選した各15項目に対して、学ぶ意欲、自尊感情、規範意識の項目別に因子分析を行った。その結果、表5～7に示すような因子を推定することができ、選定された項目は、重複する項目を除くと最終的に27項目が残った。この27項目を用いて第2次調査を行うこととした。

Ⅲ. 第2次調査

目的

第1次調査で選定した子どもの学ぶ意欲、自尊感情、規範意識の各項目について、最終的な尺度項目を決定し、各尺度の平均値と標準偏差を確認して、尺度の標準化が目的である。

方法

調査対象：福岡県下の小学校児童2,236名と中学校生徒2,292名のデータを回収した。分析対象は回収したデータで欠損値のない4,154名(男子2,133名、女子2,021名)であった。その内訳を、表8に示す。

調査用紙：第1次調査で選定した学ぶ意欲尺度(14項目)、自尊感情尺度(6項目)、規範意識尺度(7項目)の全27項目であった。

調査手続き：平成23年1月上旬～下旬でした。各

表2 教師評価の学ぶ意欲との相関係数が高い質問項目 (n=744)

質問項目	相関係数
授業で先生にやるように言われたことは、めんどくでもきちんとやるようにします。	.315
グループの発表で、決められた自分のやるべき仕事や勉強は、かならずやります。	.311
いろいろなことが知りたいので、学校の勉強だけでなく、家でも勉強しています。	.310
授業中につかれてきても、授業の終わりまで先生の話をよく聞くようにします。	.308
難しい問題でも、いろいろなやり方を考えてがんばります。	.306
難しい算数(数学)の文章題でも、できそうだと思えば、解けるまでがんばってみます。	.303
自分で、目標や計画を立てて勉強をしています。	.302
その日のうちには、どんなに時間がかかっても、宿題をすませます。	.287
国語の難しい問題でも、ねばり強く考えるほうです。	.285
自分が前に解いたことがある問題がわからない友達がいたら、その問題を解く手助けをしてあげようと思います。	.279
言われなくても苦手な勉強をします。	.270
難しい問題をやっていると、すぐにつかれて、やめることが多いです。	.270
やり残したものは、あとでもきちんとすませます。	.269
少しぐらい体の調子が悪くても、宿題だけはいつもやるほうです。	.269
めんどくだと思うときでも、当番の仕事があるときには、それをきちんとやるようにします。	.269

表3 教師評価の自尊感情との相関係数が高い質問項目 (n=744)

質問項目	相関係数
わたし（ぼく）は、少なくとも自分がほかの人と同じくらい価値ある人だと思う。	.320
グループの発表で、決められた自分のやるべき仕事や勉強は、かならずやります。	.311
わたし（ぼく）は、友達がやるのと同じくらいにいろいろなことができる。	.294
自分で、目標や計画を立てて勉強をしています。	.292
難しい問題でも、いろいろなやり方を考えてがんばります。	.289
算数（数学）のテストで、解けなかった問題を先生に聞いたり、調べたりして、わかるまで考えます。	.283
言われなくても苦手な勉強をします。	.281
わたし（ぼく）は、自分のことを積極的に認めている。	.237
わたし（ぼく）は、いくつかの点でみどころがあると思っている。	.235
わたし（ぼく）は、すべての点で自分に満足している。	.207
わたし（ぼく）は、あまり得意なことがない。	.202
わたし（ぼく）は、何をやっても失敗するのではないかとってしまう。	.164
わたし（ぼく）は、ときどき「役立っていないなあ」と感じることもある。	.150
わたし（ぼく）は、もっと自分を尊敬できたらいいと思う。	.141
わたし（ぼく）は、ときどき「自分はだめだなあ」と思うことがある。	.108

全て1%水準で有意

表4 教師評価の規範意識との相関係数が高い質問事項 (n=744)

質問項目	相関係数
授業中は、他の人のじゃまにならないようにします。	.391
授業で先生にやるように言われたことは、めんどうでもきちんとやるようにします。	.383
友達としゃべりなくなったときも、授業中はがまんするようにします。	.371
授業中につかわれてきても、授業の終りまで先生の話をよく聞くようにします。	.350
その日のうちには、どんなに時間がかかっても、宿題をすませます。	.345
グループの発表で、決められた自分のやるべき仕事や勉強は、かならずやります。	.340
めんどうだと思うときでも、当番の仕事があるときには、それをきちんとやるようにします。	.326
言われなくても苦手な勉強をします。	.308
クラスで自分が受け持ったことは、きちんとするようにします。	.292
少しぐらい体の調子が悪くても、宿題だけはいつもやるほうです。	.291
自分が受け持った係活動や学級の仕事は、きちんとやるほうです。	.275
したくない勉強は、無理にしなくてもよいと思います。	.270
勉強がいやでも、すぐにやり始めます。	.267
難しい問題でも、いろいろなやり方を考えてがんばります。	.264
やり残したものは、あとでもきちんとすませます。	.263

全て1%水準で有意

表5 学ぶ意識尺度における因子負荷量 (n=744)

質問項目	因子負荷量
授業で先生にやるように言われたことは、めんどうでもきちんとやるようにします。	.679
グループの発表で、決められた自分のやるべき仕事や勉強は、かならずやります。	.673
やり残したものは、あとでもきちんとすませます。	.649
その日のうちには、どんなに時間がかかっても、宿題をすませます。	.634
難しい問題でも、いろいろなやり方を考えてがんばります。	.626
いろいろなことが知りたいので、学校の勉強だけでなく、家でも勉強しています。	.623
言われなくても苦手な勉強をします。	.620
授業中につかわれてきても、授業の終りまで先生の話をよく聞くようにします。	.602
国語の難しい問題でも、ねばり強く考える方です。	.594
少しぐらい体の調子が悪くても、宿題だけはいつもやるほうです。	.593
自分で、目標や計画を立てて勉強をしています。	.583
めんどうだと思うときでも、当番の仕事があるときには、それをきちんとやるようにします。	.581
難しい算数（数学）の文章題でも、できそうだと思えば、解けるまでがんばってみます。	.556
自分が前に解いたことがある問題がわからない友達がいたら、その問題を解く手助けをしてあげようと思います。	.521

表6 自尊感情尺度における因子負荷量 (n=744)

質問項目	因子負荷量
わたし（ぼく）は、友達がやるのと同じくらいにいろいろなことができる。	.689
わたし（ぼく）は、少なくとも自分がほかの人と同じくらい価値ある人だと思う。	.626
わたし（ぼく）は、いくつかの点でみどころがあると思っている。	.622
わたし（ぼく）は、自分のことを積極的に認めている。	.580
算数（数学）のテストで、解けなかった問題を先生に聞いたり、調べたりして、わかるまで考えます。	.503
わたし（ぼく）は、すべての点で自分に満足している。	.503
難しい問題でも、いろいろなやり方を考えてがんばります。	.498
グループの発表で、決められた自分のやるべき仕事や勉強は、かならずやります。	.478
自分で、目標や計画を立てて勉強をしています。	.476
わたし（ぼく）は、あまり得意なことがない。	-.433

表7 規範意識尺度における因子負荷量 (n=744)

質問項目	因子負荷量
友達としゃべりたくなったり、授業中はがまんするようにします。	.520
授業中につかれてきても、授業の終わりまで先生の話をよく聞くようにします。	.651
めんどうだと思いつきでも、当番の仕事があるときには、それをきちんとやるようにします。	.647
授業中は、他の人のじゃまにならないようにします。	.596
授業で先生にやるように言われたことは、めんどうでもきちんとやるようにします。	.715
クラスで自分が受け持ったことは、きちんとするようにします。	.624
言われなくても苦手な勉強をします。	.576
勉強がいやでも、すぐにやり始めます。	.631
難しい問題でも、いろいろなやり方を考えてがんばります。	.555
やり残したものは、あとできちんとすませます。	.607
その日のうちには、どんなに時間がかかっても、宿題をすませます。	.638
自分が受け持った係活動や学級の仕事は、きちんとやるほうです。	.587
グループの発表で、決められた自分のやるべき仕事や勉強は、かならずやります。	.691
少しぐらい体の調子が悪くても、宿題だけはいつもやるほうです。	.581
したくない勉強は、無理にしなくてもよいと思います。	-.457

表8 分析対象者（人）

	男子	女子	計	
小学校	4年	368	370	738
	5年	349	306	655
	6年	377	334	711
中学校	1年	343	387	730
	2年	381	297	678
	3年	315	327	642
			4154	

クラスの担任教師が調査用紙を配布し、記入後回収した。

結果

まず、27項目の回答の偏りを検討するためにフロア効果と天井効果を求めた結果、4項目において天井効果が確かめられた。その4項目は内容的に必要であると判断し、項目の除外は行わず、27項目で分

析を進めた。さらに、27項目がどのような内容でまとまるかを確認するために因子分析を行った。

その結果、事前に予想した通りの学ぶ意欲、自尊感情、規範意識の因子を抽出した(表9)。しかし、学ぶ意欲は9項目と多く、規範意識は6項目、自尊感情は5項目と少なかった。そこで、学ぶ意欲の9項目目「少しぐらい体の調子が悪くても、宿題だけはいつもやるほうです。」を削除して、8項目とした。また、規範意識については、教師評定の規範意識との相関係数が高かった「友達としゃべりたくなったり、授業中はがまんするようにします。」を復活させ、7項目とした。さらに、自尊感情については、積極的な項目だけで構成されていたために、ここで抽出された5項目だけにとどめた。

このことから、最終的に「福岡がめざす子ども」尺度は、8項目から構成される「学ぶ意欲」、7項目から構成される「規範意識」、5項目から構成される

表9 第2次調査の因子分析結果 (n=4145)

項 目	因子		
	因子 I	因子 II	因子 III
学ぶ意欲			
言われなくても苦手な勉強をします。	.753	-.008	-.033
いろいろなことが知りたいので、学校の勉強だけでなく、家でも勉強しています。	.732	-.116	.009
自分で、目標や計画を立てて勉強をしています。	.711	-.051	.026
難しい問題でも、いろいろなやり方を考えてがんばります。	.680	.034	.024
算数(数学)のテストで、解けなかった問題を先生に聞いたり、調べたりして、わかるまで考えます。	.652	.012	-.010
勉強がいやでも、すぐにやり始めます。	.551	.161	.035
難しい算数(数学)の文章題でも、できそうだと思えば、解けるまでがんばってみます。	.525	.147	.033
国語の難しい問題でも、ねばり強く考える方です。	.459	.178	.048
少しぐらい体の調子が悪くても、宿題だけはいつもやるほうです。	.412	.224	.001
規範意識			
クラスで自分が受け持ったことは、きちんとするようにします。	-.058	.862	-.007
自分が受け持った係活動や学級の仕事は、きちんとやるほうです。	-.098	.836	.009
めんどうだと思いつきでも、当番の仕事があるときには、それをきちんとやるようにします。	.013	.719	-.026
グループの発表で、決められた自分のやるべき仕事や勉強は、かならずやります。	.076	.635	.019
授業で先生にやるように言われたことは、めんどうでもきちんとやるようにします。	.209	.509	.008
授業中は、他の人のじゃまにならないようにします。	.181	.430	-.007
自尊感情			
わたし(ぼく)は、いくつかの点でみどころがあると思います。	.000	-.029	.813
わたし(ぼく)は、自分のことを積極的(せっきよくてき)に認(みと)めています。	.024	.003	.762
わたし(ぼく)は、友達ができるのと同じくらいにいろいろなことができます。	.073	-.020	.678
わたし(ぼく)は、少なくとも自分がほかの人と同じくらいに価値(かち)ある人だと思います。	-.104	.149	.666
わたし(ぼく)は、すべての点で自分に満足(まんぞく)しています。	.055	-.082	.641
因子間相関		.699	.630
			.531

表10 「福岡がめざす子ども」尺度得点の平均と標準偏差

	学ぶ意欲		自尊感情		規範意識		
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
小 学	4年 (n=738)	23.2 (5.2)	25.4 (4.2)	14.2 (3.5)	15.0 (3.0)	22.1 (4.0)	24.4 (3.1)
	5年 (n=655)	23.3 (4.7)	23.9 (4.6)	13.7 (3.0)	13.2 (3.2)	21.7 (3.6)	23.6 (3.1)
	6年 (n=711)	22.2 (5.3)	23.3 (5.0)	13.0 (3.5)	12.9 (3.2)	21.4 (4.0)	23.6 (3.2)
中 学	1年 (n=730)	20.9 (5.1)	21.2 (4.7)	12.1 (3.1)	11.4 (3.1)	20.6 (4.0)	22.5 (3.4)
	2年 (n=678)	20.1 (5.3)	21.0 (4.9)	11.7 (3.2)	11.4 (3.1)	20.5 (4.3)	22.3 (3.9)
	3年 (n=642)	21.7 (5.1)	22.0 (4.7)	12.1 (3.2)	11.3 (3.0)	21.2 (3.7)	22.1 (3.6)

「自尊感情」の3つの下位尺度で構成され、全20項目の質問紙となった。

また、学ぶ意欲、自尊感情、規範意識の各尺度において、各項目における合計得点の平均値と標準偏差について、学年別と性別に算出した(表10、図1、図2、図3)。

信頼性の検討：第2次調査で決定した「福岡がめざす子ども」尺度の3つの下位尺度(学ぶ意欲、自尊感情、規範意識)において、それぞれの内的整合性を確認するため、クロンバックのα係数を算出し

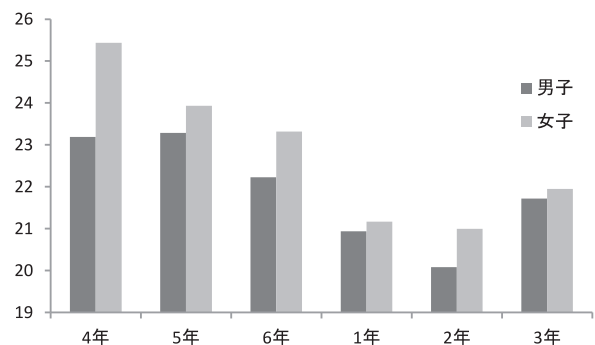


図1 学ぶ意欲得点

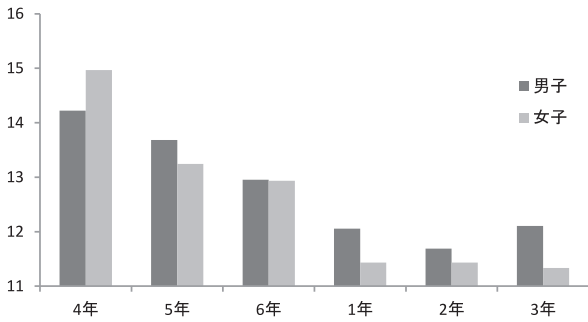


図2 自尊感情得点

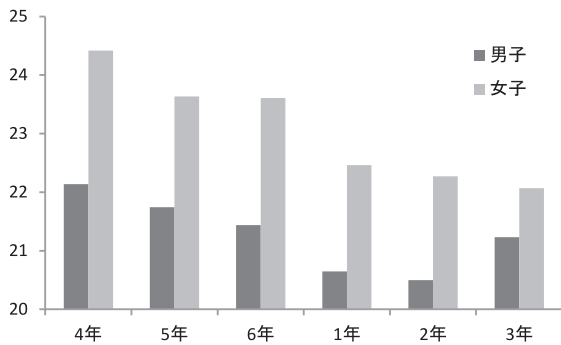


図3 規範意識得点

た(表11)。これを見ると「学ぶ意欲」の α 係数は全体で.87、「自尊感情」の α 係数は全体で.83、「規範意識」の α 係数は全体で.85であった。このように、3つの下位尺度とも高い α 係数(.80以上)を示し、尺度として一貫していると考えられる。

次に、3つの下位尺度において、どれだけ安定しているかを見るために1週間間隔で調査した結果について分析を行った。そこで、小学4年生332名(男子165名、女子167名)、5年生388名(男子200名、女子188名)、6年生312名(男子168名、女子144名)と、中学1年生393名(男子186名、女子207名)2年生449名(男子247名、女子202名)、3年生320名(男子157名、女子163名)で1週間間隔の再検査信頼性(回答の安定性)を算出した(表12)。「学ぶ意欲」は全体で.83、「自尊感情」は全体で.82、「規範意識」は全体で.81であった。このように高い相関関係(.80以上)を示し、尺度として安定していると考えられる。

妥当性の検討：第1次調査のデータを用いて、第2次調査で決定した「福岡がめざす子ども」尺度の3つの下位尺度項目の合計得点と教師評定との相関係数(1.0に近ければより関係性が高い)を算出した(表13)。その結果、「学習意欲」は全体で.41、「自尊

表11 下位尺度の α 係数

	学ぶ意欲	自尊感情	規範意識
小学 4年 (n=738)	.86	.84	.85
5年 (n=655)	.84	.81	.80
6年 (n=711)	.88	.83	.85
中学 1年 (n=730)	.85	.81	.84
2年 (n=678)	.88	.84	.88
3年 (n=642)	.87	.83	.86
計	.88	.84	.85

表12 下位尺度の再検査信頼性

	学ぶ意欲	自尊感情	規範意識
小学 4年 (n=332)	.83	.78	.77
5年 (n=388)	.82	.80	.82
6年 (n=312)	.86	.86	.84
中学 1年 (n=393)	.83	.81	.84
2年 (n=449)	.76	.75	.79
3年 (n=320)	.81	.83	.77
計	.88	.84	.85

全て1%水準で有意

表13 教師標定との相関関係

	学ぶ意欲	自尊感情	規範意識
小学 4年 (n=154)	.38**	.43**	.50**
5年 (n=157)	.35**	.45**	.46**
6年 (n=174)	.40**	.46**	.52**
中学 1年 (n=125)	.45**	.14	.50**
2年 (n=134)	.41**	.23**	.47**
計	.41**	.36**	.48**

**p<.01

感情」は全体で.36で、「規範意識」は全体で.48であり、中程度の相関関係を示していた。このことから、おおむね子どもの実態を反映する尺度であると考えられる。

考察

信頼性と妥当性が保証され、簡単に調査が行える「福岡がめざす子ども」尺度の作成を行うため、2回の調査を行った。その結果、子どもの学ぶ意欲、自尊感情、規範意識を測定することができる20項目で構成された「福岡がめざす子ども」尺度をした。この尺度は、似たような項目同士の回答が一貫しており、短期間に複数回実施しても回答が安定していることが今回の分析から確かめられた。また、担任教師の子どもの評定ともよく対応しており、子どもの

実態を反映していると考えられる。

この尺度における学ぶ意欲の合計得点の平均値(図1)を見ると、中学3年生を除くと、ここでも学年が上がるごとに低い値を示し、学年が上がるごとに学ぶ意欲が低下すると考えられる。また、中学3年生において、中学1・2年生より学ぶ意欲が高いのは、高等学校の受験を控えており、勉強に取り組む姿勢が高くなっていることが影響しているのではないかと考えられる。

次に、自尊感情の合計得点の平均値(図2)を見ると、小学生では、学年が上がるごとに低い得点を示している。しかし、中学生では、学年間であまり差が見られない。このことから小学生の自尊感情は年齢が上がるごとに低下し、中学生になり下げ止まるのではないかと考えられる。小学生は、まだ自己認識力が低く、あらゆることに対して自信を持っていたものが、年齢が上がると自己認識力が高まり、自己の能力の限界や客観的能力を認識できるようになり、自尊感情が低下すると考えられる。また、小学生は、重要な他者の価値あるフィードバックや賞賛、励ましなどで自尊感情が向上・維持するが、年齢が上がるにつれて仲間との比較や評価により自尊感情が低下するものと考えられる。しかし、中学生となると、自己認識力がつき、仲間と比較することが多くなり、自尊感情が下げ止まるのではないかと考えられる。

さらに、規範意識の合計得点の平均値(図3)を見ると、中学3年生の男子を除くと、小・中学生とも学年が上がるごとに低い得点を示し、規範意識の低下が見られる。また、性差も見られ、女子の方が一貫して高い値を示し、規範意識が高いと考えられる。これは、ルールや規則を守ることが男子よりも女子で社会からより強く求められるという社会的・文化的な性差が反映されているのではないかと考えられる。

文献

青島朋子 2008 教師編自尊感情尺度 児童心理 62: 9、129-135。
中央教育審議会 2002 子どもの体力向上のための総合的な方策について(答申)。

福岡県青少年アンビシャス運動推進室 2010 子どもの自尊感情と生活のあり方との関係についての研究
古荘純一 2009 日本のこどもの自尊感情はなぜ低いのか 光文社
原田唯司・鈴木勝則 2000 中学校における生徒・保護者・教師の規範意識の比較 静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学編) 50、267-283。
速水敏彦・伊藤 篤・吉崎一人 1989 中学生の達成目標傾向 名古屋大学教育学部紀要教育心理学科 36、55-72。
教育力向上福岡県民会議 2008 福岡の教育ビジョン第一次提言・第二次提言。福岡県教育庁教育企画部企画調整課教育力向上対策室。
教育力向上福岡県民運動推進会議 2010 平成21年度教育力向上福岡県民運動実践の手引き。教育庁教育企画部企画調整課教育力向上対策室。
教育力向上福岡県民運動推進会議 2011 平成22年度教育力向上福岡県民運動実践の手引き。教育庁教育企画部企画調整課教育力向上対策室。
教育力向上福岡県民運動推進会議 2012 平成23年度教育力向上福岡県民運動実践の手引き。教育庁教育企画部企画調整課教育力向上対策室。
村上宣寛 2006 心理尺度の作り方 北大路書房
長崎県教育センター 2002 長崎県児童生徒の社会性・規範意識に関する調査研究報告
中谷素之 1996 児童の社会的責任目標が学業達成に影響を及ぼすプロセス 教育心理学研究 44、389-399。
中山勘次郎・西山康春・柳澤 登 2011 児童用自尊感情尺度の検討 上越教育大学紀要 30、63-74。
野村和樹 2003 児童におけるセルフ・エスティームと発達段階の関係 大阪ソーシャルサービス研究紀要 4、27-48。
沖 裕貴 2009 「学力低下論争」を振り返って 立命館高等教育研究 11、131-150。
安香 宏・田中純夫・関真理子・中村奈緒子・笠井孝久 1990 児童における規範意識の構造とその関連要因 千葉大学教育学部研究紀要 38、1-29。
桜井茂男・高野清純 1985 内発的—外発的動機づけ測定尺度の開発 筑波大学心理学研究 7、43-54。
桜井茂男 1992 小学校高学年における自己意識の検討 実験社会心理学研究 32、85-94。
下山 剛・林 幸範・今林俊一・黒木真由子・塚田洋二・宮本光博・曾我部和弘・大塚敬吾・前原辰信 1983 学習意欲の構造に関する研究(2)—学習意欲の類型化の検討— 東京学芸大学紀要1部門 34、139-152。
塩澤雄一 2011 子どもの規範意識に関する現状分析と意識向上の方途についての一考察 目白大学総合科学研究 7、41-46。
滝 充 2012 子どもの規範感覚・規範意識の現状と課題 児童心理 66: 1、1-11。
横山正幸 2010 子どもの自尊感情と体験の関係について 生活体験学習研究 10、53-62。